

区分	内容
発生時期	12月 午後9時頃
業種	土木工事業
発生状況	資材置き場で夜間工事の準備作業中、交通誘導員が発電機へ給油をしていた際に引火し、火災が発生した。この火災により交通誘導員が手に火傷を負うとともに、隣接する家屋の一部が熱により損傷した。 火災の原因は静電気と想定される。
当該事業者の今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリン携行缶からの給油を極力少なくするため、発電機等のガソリンは毎日作業開始前に残量を確認し、燃料タンクを満油にしてから稼働する。</li> <li>・ガソリン携行缶からの給油については、元請け業者の作業員が行う。</li> <li>・ガソリン携行缶は、直射日光のあたる場所や高温の場所に置かない。</li> <li>・ガソリンを給油する際は、換気や風通しの良い場所で行い、周囲の安全確認とエンジン停止を徹底する。</li> <li>・ガソリン携行缶の蓋を開ける前に、静電気を放電するように車両の金属部分に接触するとともに、エア抜きを行う。</li> <li>・ガソリンを給油する際は、静電気の発生を防止するため、樹脂製の灯油ポンプは使用せず、付属のノズルを用いできるだけゆっくり給油する。また、金属製の容器や発電機をゴムマットなど絶縁物の上に置いて給油しない。</li> </ul>

区分	内容
発生時期	11月 午後12時頃
業種	土木工事業
発生状況	配管作業を行うため、堀山に入り作業を行っていたところ、山留背面の土砂が崩壊し、作業員が山留材と新設管に腰を挟まれ、負傷した。
当該事業者の今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山留の設置方法について、配管状況で切梁設置が困難な箇所については、上段部の切梁のほか部分的にでも2段梁を設置する等の対策を実施し、山留の崩壊を防ぐ措置を行う。</li> <li>・山留背面の土砂崩落の危険がある場合は、背面土砂の再掘削や切梁の補強、捨て梁等を行う。</li> <li>・地山確認作業を始業前、掘削中、掘削完了後、基礎工及び配管作業前に行い、確認後配管作業を行うようにする。</li> </ul>

区分	内容
発生時期	8月 午前9時頃
業種	土木工事業
発生状況	路盤をバックホウにて掘削中、既存の路盤が固く、バックホウ前方にあるハイド板が浮いてしまい、ずれて落ちてきてしまった。ずれて落ちた場所に清掃作業をしていた被災者の左足があり、ハイド板に親指付け根を挟まれ、負傷した。
当該事業者の今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旋回範囲内には、侵入しない。</li> <li>・オペレーターの死角を作業員全員に周知させる。</li> <li>・合図者も旋回方向だけでなく、旋回範囲に作業員が入ったら注意し、オペレーターに知らせる。</li> <li>・無理な掘削は、行わない。</li> </ul>

区分	内容
発生時期	7月 午後1時半頃
業種	土木工事業
発生状況	現場内で敷鉄板を移動させるため、クレーン式バックホウにより鉄板を吊り上げ、鉄板の方面が45度上がった時点で、作業員が鉄板の横方向へ移動した。その際に、作業員が足を滑らせ、堀山に倒れた。同時に何らかの理由で、吊り金具の安全装置が外れ、作業員の両足に鉄板が倒れ、負傷した。
当該事業者の今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吊り金具をクランプ式からフック式に変更する。</li> <li>・玉掛作業員による取付状況の確認を徹底し、合図者を別に置き、安全な状況を確認し、オペレータへ指示をするように作業を行う。</li> </ul>